

# 永野川流域の古墳時代大刀と馬具 —栃木市伯仲1号墳とその周辺地域を考える—

うち やま とし ゆき  
内山 敏行

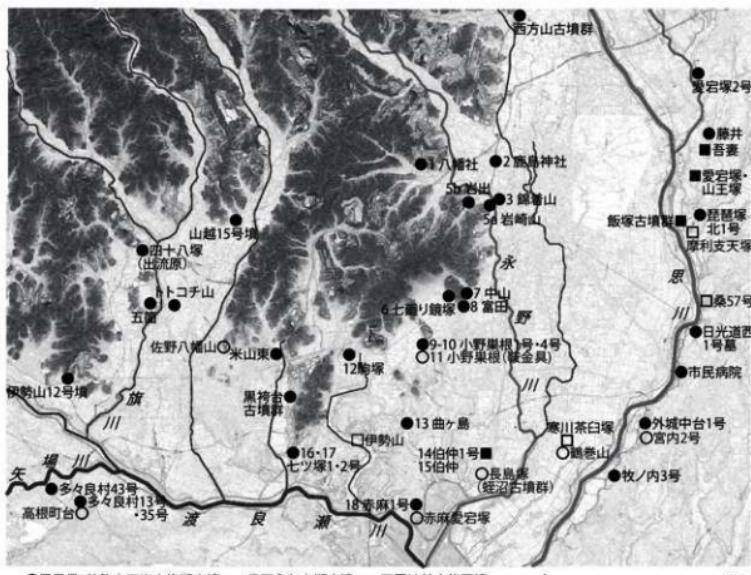
はじめに

1 永野川流域の古墳時代馬具

2 永野川流域の古墳時代装飾大刀

3 装飾付武器・馬具出土古墳と古墳時代後期

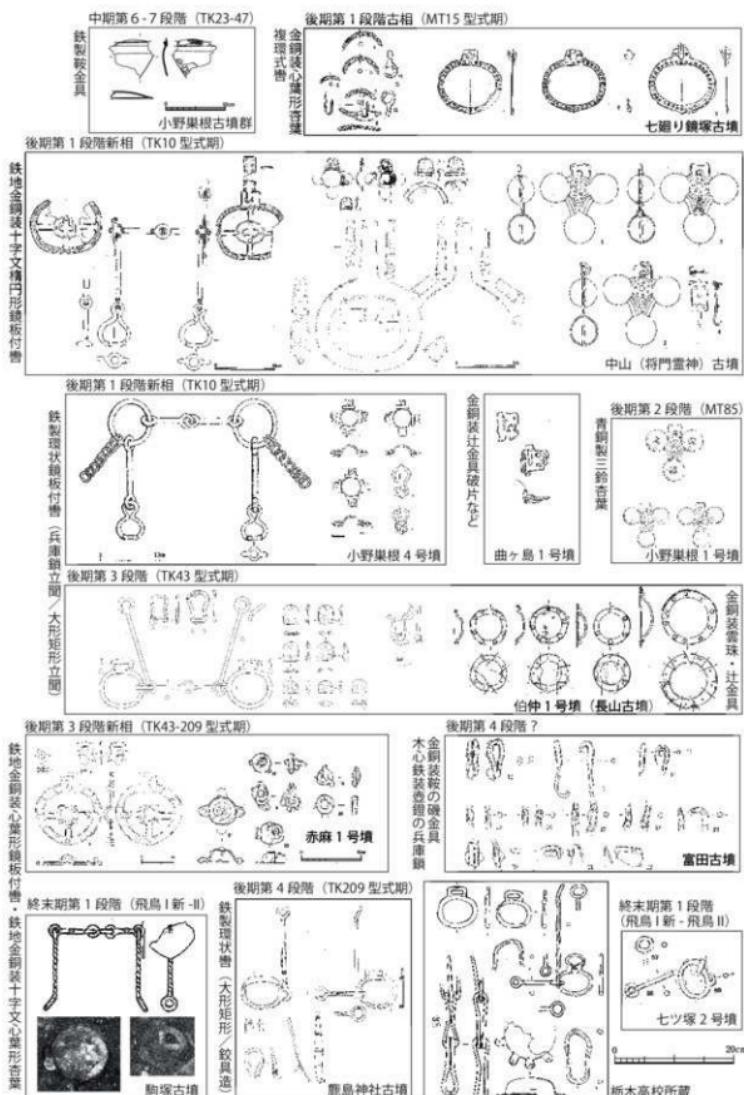
栃木県域南部の永野川流域周辺に装飾大刀や馬具が多い。古墳後期前・中葉に三鈴杏葉や大加那系装飾馬具・大刀が出土する。後期後葉には、径20mの赤麻1号墳の金網装飾・主頭大刀が、この地域最大の後期前方後円墳である伯仲1号墳の鉄製轡・鉄製円頭大刀より優位にみえる。後期末～終末期は富田古墳の装飾大刀や胸締古墳の装飾馬具が最上位である。後期後葉には群集墳の頂点をなす地位以上が継承した装飾大刀が、後期末葉から群小墳に波及して地位や家格を表示しているのか不明瞭になる。丘陵に多い後期群小墳から離れた平地に後期有力墳を造る理由として、中期古墳の立地を繼承したことと推定する。



第1図 永野川流域をとりまく地域の馬具・装飾大刀出土古墳および中期古墳

第1表 永野川流域および隣接地域の馬具・装飾大刀出土事例

No	所在	古墳名	墳形	規模 (m)	時期	主体部	馬具	装飾大刀・武器ほか	文献
1	福井市	八幡社	円	径 19m		横穴式石室	「馬具」	铁振・土师器・轆轤	福井市教委 1990, p.105
2	福井市	荒島神社	不明	不明	TK209	横穴式石室	大型矩形立闇室櫛襷1・鉄地 金網張飾金具片1・鎧兜金具 1・鎧車軸片1	金網製頭柄頭1・直刀2・鉄 襷1・鉄鎧10以上・耳環2	6世紀・大橋 1988
3	福井市	越着山	不明	不明			「金網製鉢1・金網製鉢1」	金網鞘金具(魚々子文)破片 3	東博1980, p.120
4	福井市	福井高校付 近	不明	不明	TK209-飛鳥I	大型矩形立闇室櫛襷1・鉄具 造立闇室櫛襷1・鎧車軸片1 鐵製雲珠1・鉄具1	金網鞘金具(魚々子文)破片 1・頭柄頭1・刀長頭頭邊1	元・舟藤 1982	
5	福井市	旧御川村岩崎 (岩崎山古墳群 古墳たは 岩出古墳群)	不明	不明	飛鳥II	不明		金網反龍頭頭柄頭(旧御川 中學校旧蔵・所在不明)	舟藤1928, 福 木県古墳勉 強会2012
6	福井市	七郷の塚原	円	28.4m	MT15	木棺床上 に木棺2	(舟形木棺)復原武具1・達金 具残片? (箱形木棺)金網裝 心葉形杏葉3	(舟形木棺)鉄刀1・鉢身+右 突各1・刀2・平根鉄鏃14・縦 根鉄鏃4・縦矢6・エンド板2・ 革縫・竹編2・棒状木製品2・凸 形状木製品・箆状竹製品・革 製品 (箱形木棺) 鉄刀1・金 網製三輪3B・毛製品	大平町教委 1974, pp.70- 71
7	福井市	中山(得門塗)	円	18m	TK10	横穴式石室	金網裝横凹形十字鍍板帶 1・木心歎板張輪1・對三鉢 合葉3・鉄金具1・金網裝辻金 具2・鉄製頭狀雲珠1	铁刀3・範表袋刀子1・铁藏13 以上	福井県古墳 勉強会2004, 2005
8	福井市	富田	不明	不明	TK43-209	横穴式石室(推定)	鉄地金網張鞍轡金具片1・ 鎧車軸破片・鎧兜金具破片	頭裝主頭羽根頭1・鉄地頭 襷・柄巻銀錠1・鹿頭?の金網 製裝具(ぬ出頭/縦/單脚足金 物・新輪板)	竹澤2014 pp.29-37
9	福井市	小野鬼掛1号	円	16- 20m	MT85	横穴式石室	鉄製轡1・三鈴杏葉3	鉄地銀張1上円下方環頭大 刀1・鉄藏約70・刀子2・埴輪	前澤1955b, 若井町1988, 小森哲也 1989, 小森記 他1989, 金字 大2017
10	福井市	小野鬼掛4号	円	20m	TK10	横穴式石室	兵庫頭通結果櫛襷1・鉄製辻 金具3・鉄具2	鉄刀6・鉄藏156・刀子4(圓角 角含む)・ヤガガナ1・埴輪	若井町教委 1988
11	福井市	小野鬼掛古 墳群出土	不明	不明	TK23-47	不明	鉄製鞍金具破片(福井市教委所 蔵, 図は内山2017)	新留短甲破片(福井市教委所 蔵)	内山2017
12	福井市	祠塚	円	54m	TK209 (馬具 飛鳥I)	横穴式石室	大型矩形立闇室櫛襷1・心葉 形鍍板帶1・鉄地金網十字 心葉形杏葉1・鉄具	铁刀11片(5握以上、八咫鏡1 無志諱1)・鉄鏃	福井県教委 1981, pp.21- 29
13	福井市	曲ヶ島1号	円	25- 26m	TK10- M785?	横穴式石室	金網裝辻金具片1・金網裝辻 金具片2!	铁刀2(無志諱付1)・刀子1・鉄 藏1片	前澤1973, pp.7-8
14	福井市	長山(伯仲) 号境	前方 後円	復原 60m	TK43	横穴式石室	大型矩形立闇室櫛襷1・金網 無志無脚珠1・金網裝無脚辻 金具3・鉄製具2・鉄込10- 金網裝帯端金具7	横円頭柄頭1/輪原1・直刀2、 無志鐵3・赤黃金具1・鉄鏃 口金具1・広根鏃(短2/2 有頭2/2)・テラ開頭彌23・長頭 鏃10・反刀7・兩刃16・弓 兩頭金具8・鉄装ユカリ・鍊1・刀 子7・鎖1・頭1・棒状鉄製品・金 網冠1・鉄耳環4・メタウ勾玉9、 土玉5・ガラス小玉59・円鏡1/ 人物・斑兔等	福井県古墳 勉強会2018, 2019
15	福井市	伯仲古墳群	不明	不明				頭裝大刀(原物1件所在不明) 「故佐田崩之助氏所蔵 大久 保右次氏」記示	小森1986
16	福井市	七ツ塚1号	円	不明	TK209- 飛鳥II	横穴式石室		鉄地頭象嵌1・頭柄頭1・長頭 襷(片刃)	曾田崩1972, 折原2020
17	福井市	七ツ塚2号	円	12m	飛鳥II	横穴式石室	大型矩形立闇室櫛襷1	無志頭柄1・頭裝黃金具1・鉄 襷2片・刀子3・金網耳環3・頭 轡1对・頭裝器片	曾田崩1972, pp.56-67; 折 原2020
18	福井市	赤麻1号	円	20m	TK43- 209	横穴式石室	金網裝十字透心葉形鍍板 1・衝および引手破片・辻金具 2・金網雲珠被片2	金網主頭柄頭(所在不明)・鉄 地頭象嵌1・頭柄頭1・無志頭 襷・金網襷1・金網耳環2・水晶 切子玉1・碧玉管3・円筒埴輪	高橋1917・藤 岡町1985・藤 岡町2003



第2図 栃木県栃木市永野川流域周辺地域の古墳時代馬具

## はじめに

栃木県南西部の永野川流域にある栃木市大平町伯仲1号墳（長山古墳）は、推定墳長60m以上と考えられ、栃木・三毳・安蘇地域——思川から旗川までの間——で最大の後期前方後円墳である（栃木県古墳勉強会2018・2019）。西に連続する蓮花川流域で、同じ古墳後期後葉に栃木市岩舟町甲塚古墳（墳径78m）、後期末に胸塚古墳（墳径53m）のような大型円墳が築造されている。

ここでは、永野川流域の古墳時代馬具と装飾大刀を検討する。この地域には多種類の装飾大刀が多い（栃木県古墳勉強会2012,p.50）。芳賀郡益子周辺（小森1991,p.179; 黒崎・小森2014,p.103）や足利周辺とともに、下毛野では装飾大刀の集中域である。馬具の出土数も多い。永野川流域とその隣接地域（第1図1-18）で出土した古墳時代馬具と装飾大刀を第1表、実測図がある馬具を第2図、装飾大刀を第5図に示す。

古墳時代後期前葉から中葉に三鈴杏葉と大加耶系装飾馬具・大刀がもたらされる／後期後葉に径20mの赤麻1号墳の金銅装轡・主頭が長60mの伯仲1号墳の鉄製轡・円頭よりも優位にみえる／後期末～終末期に富田古墳の大刀2振や胸塚古墳の心葉形馬具が最上位であることに注目する。後期後葉には群集墳の頂点をなす地位以上が副葬していた装飾大刀が、後期末葉から群小墳に波及するので、高い家格や地位を示すのが不明確になる。丘陵に多い後期群小墳から離れた平地に後期有力墳を造る理由として、中期古墳の立地を継承したことを見定す。

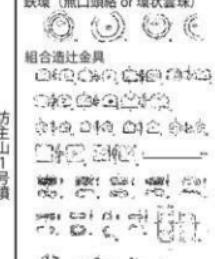
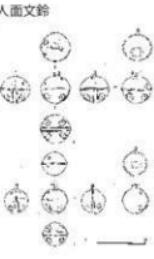
## 1 永野川流域の古墳時代馬具

〔古墳時代中期後半〕 永野川流域で最古の馬具は、栃木市岩舟町小野巣根古墳群の鉄製鞍金具破片である（第2図左上）。一緒に保管されている大型鋲の横矧板銀留短甲破片からみて古墳中期後葉か末葉になる。古墳中期の鉄製鞍金具は中期中葉の初期馬具（大阪鞍塚、滋賀新聞1号、奈良ベンショ塚、岐阜県中八幡）から杏葉を伴う段階（大阪御獅子塚、宮崎県下北方5号）を経て、釘間隔が広くなる中期末葉（福岡塚堂古墳）まで少數ずつ認められる。小野巣根の鞍の海金具は古い時期に多いが、現存破片に孔がなくて釘間が広いと見られる点が新しい。

小野巣根古墳群で鞍金具と短甲を出土した古墳は、希少な中期の馬具に加えて短甲または小札甲を副葬する足利市助戸十二天・宇都宮市雀宮牛塚・真岡市大和田富士山古墳と同じ階層と考えることができる。この3基は、墳長30～50m級の前方後円墳か帆立貝形古墳である。栃木県域の馬具副葬古墳は約120基で、関東では群馬県に次いで多い。しかし中期の馬具は他に6例だけで（下久亀塚・松の塚・磯岡北2号・十三塚6号住・岩舟台・酢屋5号）、馬利用が始まるころの状況を示す。墳長69mの下久亀塚は馬具（杏葉）の詳細が不明で、栃木県域では中期の大型古墳の副葬品がほとんどわからない。ほかの馬具出土中期古墳は墳長50m級以下のもの・小規模墳である。

中期の中規模円墳群とみられる栃木市藤岡町蛭沼古墳群の中に、甲冑を出土した（遺物は水害で失われた）という中期末～後期前半頃の径25mの円墳である長島塚古墳が、伯仲1号墳の南970mにある（藤岡町史2003,p.256）。隣接地域の中期古墳は、南西に栃木市赤麻愛宕塚・愛宕塚南古墳（飯田・秋元2003）、西に接する蓮花川流域で伊勢山古墳（藤岡町1985,p.52; 藤岡町史2003,pp.273-275）、東側に小山市寒川古墳群の鶴巻山・茶臼塚古墳がある（第1図）。

〔古墳時代後期前葉～中葉〕 栃木市大平町七郷り鏡塚古墳の組み合わせ箱形木棺と、京都府宇治市坊主山1号墳中央棺の金銅装心葉形杏葉は、後期前半（MT15-TK10型式並行期）の大加耶系の心葉形杏葉として、数少ない事例である（奈良大学2020,第3図）。後期前半の後の鏡板と杏葉は心葉形ではなく楕円形である。心

	面繫（轡・辻金具・力具）	尻繫（杏葉・鉤状吊金具）・鞍・鎧	音響具（鈴）
七廻り鏡塚古墳	 舟形木棺出土 複環式轡	 組み合せ木棺出土 鉄地金銅張心葉形杏葉	大平町教育委員会 (大和久震平編) 1974 『七廻り鏡塚古墳』, p.70 奈良大学文部省文化財学 科「唐山古墳群出土品報 告書」, pp.27-29
坊主山1号墳	 鉄環（無口頭絡 or 環状雲珠） 組合造辻金具  1号墳棺外北側	 鐵地金銅張心葉形杏葉 木心铁装鎧金具 鞍の縁金具? 1号墳棺外北側	人面文鈴  1号墳棺外南側

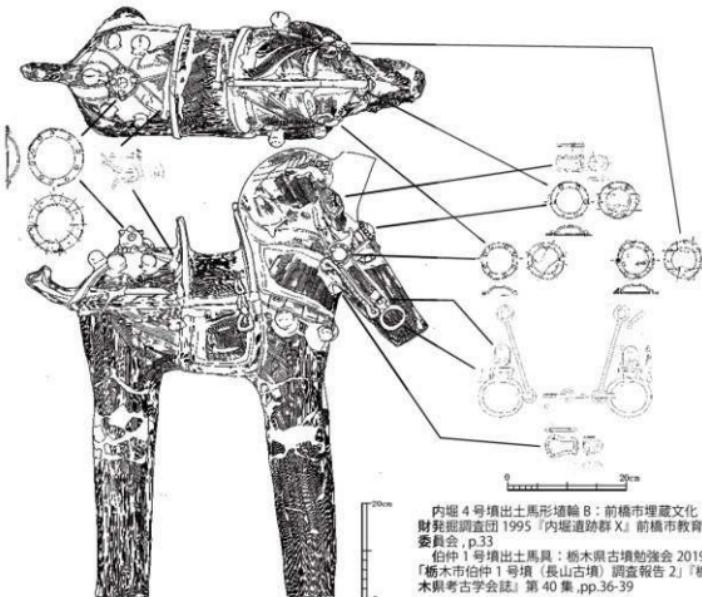
第3図 栃木県栃木市七廻り鏡塚古墳と京都府宇治市坊主山1号墳の馬具

葉形の外形は新羅の馬具に由来するが、七廻り鏡塚と坊主山1号の杏葉は鉤状吊金具を使う（新羅の帯状吊金具ではない）ので、大加耶系の製品である。大加耶圏では玉田M6号墳・池山洞45号墳に6世紀前半の心葉形杏葉があり（千賀1996）、七廻り鏡塚の杏葉も大加耶製の可能性がある（内山2011b, p.142）。

七廻り鏡塚古墳は、一組の馬具の面繫と尻繫を分けて副葬する事例で、複環式轡が埋葬用の舟形木棺にあり、杏葉3点は副葬品用の箱形木棺に納めている。坊主山1号墳中央棺では鈴2点だけが他の馬具から離れて木棺の南外で鉄鐸と一緒に出土している。これらは馬具の一部部品を外して儀礼的に使う事例であろう（宮代2016）。音が鳴る部品を馬具から外す状況は、岡山県正崎2号墳の環鈴を他の馬具から離して「さいごのお別れ」儀礼に使うのがわかりやすい事例である（山陽町2004）。坊主山1号墳の鈴2点も、大加耶を中心としてその東に接する釜山地域まで分布する「人面文鈴」である（趙晟元2019, p.79）。「目玉鈴」とも呼ばれる。この鈴も、坊主山の心葉形杏葉を大加耶系の製品と考える傍証になる。

複環式轡を検討した大谷宏治は、七廻り鏡塚古墳の轡をA1類に分類して、A1類の多くを日本製、A2類を朝鮮半島製品と考えた。「A類の個別属性は韓半島の加耶圏（特に高靈、陥川、昌寧）で確認できるが、……（中略）……韓半島からの渡来工人の関与は必要であるが、最初期の東塚古墳例を除いて日本列島産の可能性が高い」と述べている（大谷2021, p.441）。大谷がA1類を日本製と考える理由に挙げた諸点（「人」字形接合、鉤状吊金具の鉄配置、兵庫鎖）をいずれも確認できない七廻り鏡塚の轡は、後製か加耶製なのか決め手を欠くといふべきであろう。

後期前葉の栃木市大平町中山（将門靈神）古墳と、後期中葉の小野果根1号墳では三鈴杏葉がある。小野果根1号墳の轡は残りが悪く詳細不明である。中山古墳の十字文梢円形鏡板付轡は、西日本では三葉文梢円形杏葉とセットになるが、東日本とくに北関東西部の栃木県域では金銅装三葉文梢円形杏葉を青銅製鈴杏葉に置換した組み合わせが供給される（内山2011a, p.64）。金銅装梢円形鏡板付轡で階層（後全域で共通する社会的地位）を示すとともに、鈴杏葉によって役割（東日本出身者が多く受け持つ職掌など）を音で示す馬



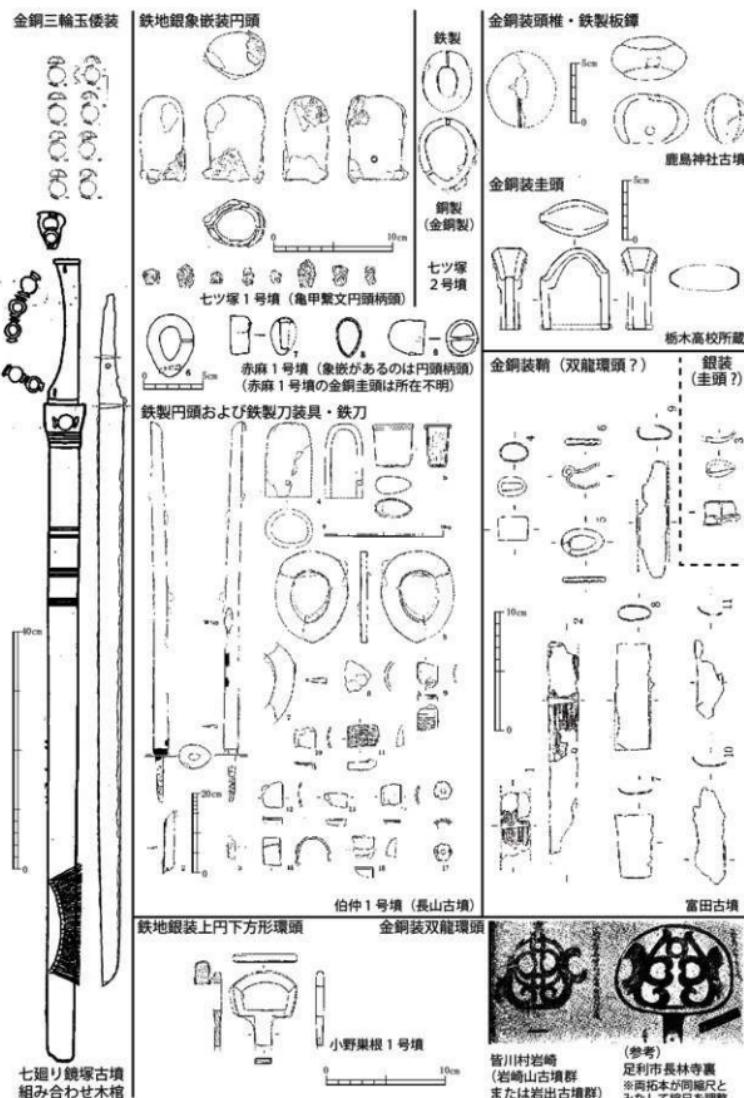
第4図 栃木県栃木市伯仲1号墳出土馬具と群馬県前橋市内堀4号墳出土馬形埴輪の馬装

装である。鉢古葉に置き換えられるために三葉文梢円形杏葉は関東地方では少ないので、埼玉県行田市北大竹遺跡で近畿製の鉄鍔・須恵器・单鳳環頭とともに出土している点が興味深い。(埼玉埋文 2022)。

**(古墳時代後期後葉)** 群馬県内堀遺跡群4号墳の馬形埴輪B(前橋市 1995, 第4図左)で、伯仲1号墳と同種の面繫を丁寧に表現している。裏面で革帶が交差している伯仲1号墳の金銅張無脚辻金具2点は、面繫の左右の交点に使う。残る1点の無脚辻金具は面繫の中央に使うもので、裏面で横方向の革帶が通り、直交する帯は辻金具にあわせて丸く切断し上下に伸びない。伯仲1号墳の金銅張無脚雲珠は7方向に革帶を延ばすもので、尻繫の中央に使う。鉄製シオデがあるので、木製鞍も副葬していたことがわかる。鎧は副葬しなかつたのか、木製壺鎧を革帶でつるすようなすべて有機質の鎧があったのか、または乱掘で失われたのか、はつきりしない。

こはゼ形3筋の金銅張帯端金具4点のうち2点で、襷の立間に面繫を留める(宮代 1997, pp.55-56)。さらに2点は(内堀4号墳の埴輪では表現されていないが)、鋲具の根元に面繫を固定する用途を考えられる。残りの帯端金具3点は面繫や尻繫のどこに使うのかよくわからない。金銅張帯端金具で立間や鋲具に繫を固定する使い方は、伯仲1号墳より一段階古いTK10型式期の宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓でよくわかる(えびの市 2021, pp.26,39)。大型矩形立間環状鏡板付襷の面繫に無脚辻金具を使う伯仲1号墳・内堀4号墳と同様の馬装を島内139号墓でも推定できると思われるが、無脚辻金具3個と無脚雲珠1個を尻繫に使う可能性も検討されている(肥田 2021, p.48)。

推定墳長60mの伯仲1号墳よりも、墳径20mの赤麻1号墳の金銅装鏡板襷(第2図左下)・金銅装主頭大刀・



第5図 栃木県栃木市永野川流域周辺地域の装飾大刀

象嵌装円頭大刀（第5図中上）のほうが装飾性は高い。時期が接近している両古墳で、埴丘規模と馬装にみられる上下関係が逆転してみえる。伯仲1号墳の馬具が床面上層の（=独立した古墳を造営しなかった追葬者の）副葬品であることが関係するのであろうか。伯仲1号墳の馬装は、鉄製轡で馬を速く走らせる実用性と、金銅装の辻金具・雲珠・帶端金具による装飾性を兼ね備えている。また、伯仲1号墳の円頭大刀は金銅装ではなく簡素な鉄装である。赤麻1号墳のような十字文透心葉形鏡板轡は、地域最有力墳に次ぐ階層の古墳で出土することが多い。（大谷 2020,p.12）。

〔古墳時代後期末葉～終末期初頭〕 水野川流域では栃木市大平町富田古墳が金銅装馬具を持つ。兵庫鎖のほかに鉄地金銅張の鞍金具破片が表面採集されている（第2図富田古墳の右下、竹澤 2014）。銀線巻柄大刀と金銅装大刀の破片（第5図右）からみて後期末葉前後であろう。

西に続く蓮花川流域では、金銅装杏葉を持つ栃木市岩舟町駒塚古墳の馬具が最上位である（第2図左下）。心葉形鏡板付轡も、心葉形の鉄製地板の上に金銅張の飾り板を推定することが妥当である。ただし、駒塚の杏葉と大型矩形立間造環状鏡板付轡は所在不明で、実測図も報告されていない。甲塚西遺跡の報告書の写真（栃木県教委 1981, PL12 下段左）にある卷尺の目盛から、2枚の金銅装十字文心葉形杏葉の横幅は約8cmと9cmである（第2図左下写真）。立間に2枚で繋を直接留めるもので、終末期第1段階・飛鳥I新相並行期・7世紀前葉から第二四半期頃に相当する。胸張がない細長方形の駒塚古墳の横穴式石室は、伯仲1号墳のすぐ後で古墳後期末葉とみられ、金銅装心葉形装飾馬具は追葬品と考えることになる。

後期後半以後、環状鏡板付轡の大半が大型矩形立間造と鉢具造になるので、「畿内系」の轡（宮代 2015・田中 2015・大谷 2022）が主に供給・使用されたといえる。この状況は、東日本で馬具出土古墳が最も集中分布する長野・静岡・群馬・栃木県域で広く共通する。環状鏡板は栃木高校所蔵品で鏡板高70mmと62mm（大型矩形立間）および70mm（鉢具立間）、鹿島神社古墳で鏡板復原高68mm、七ツ塚2号墳が鏡板高64mmで、小形のものが新しい。

## 2 水野川流域の古墳時代装飾大刀

〔古墳時代後期前葉～中葉〕 後期前葉・中葉は金属装の装飾大刀が盛んに作られるよりも前で、倭装大刀と舶載装飾大刀がみられる。倭装大刀は栃木市七廻り鏡塚古墳に金銅製三輪玉装飾大刀がある（第5図左）。馬具でも触れた京都府坊主山1号墳と七廻り鏡塚古墳は、三輪玉倭装大刀や鉢などの武器でも類似点が多い。

小野果根1号墳の鉄地銀張り上円下方形環頭大刀は（第5図下）、大加耶から撤入された「素環III群」と考えられている（金子大 2017, pp.273-274）。そうであれば、製作年代は大加耶が新羅に併合される562年以前であろう。小野果根1号墳への副葬年代は、竪穴式石室を持つことと後期第2段階の鈴杏葉を伴うこと



第6図 上円下方形環頭大刀と変形三葉文環頭大刀の事例

からみて MT85 段階並行期、6 世紀第三四半期になる。小野果根 1 号墳の他には、岡山県で瀬戸内市金鳥塚古墳に銀装の素環 III 群、TK43 型式期の倉敷市王墓山古墳に金銅装の上円下方形環頭がある（第 6 図）。これと同じく古墳後期の後で主流にならない外来系環頭大刀の一種として、MT85 段階の埼玉県将軍山古墳にある大加那の龍鳳 III 4 群環頭大刀（金字大字 2017, pp.218,279）と同種の変形三葉文環頭が、岡山市の旧御津郡建部村でも出土している（濱田他 1923, p.108）。北関東西部と岡山県域で MT85-TK43 期に大加那の装

第2表 後期古墳の階層・副葬品と装飾大刀

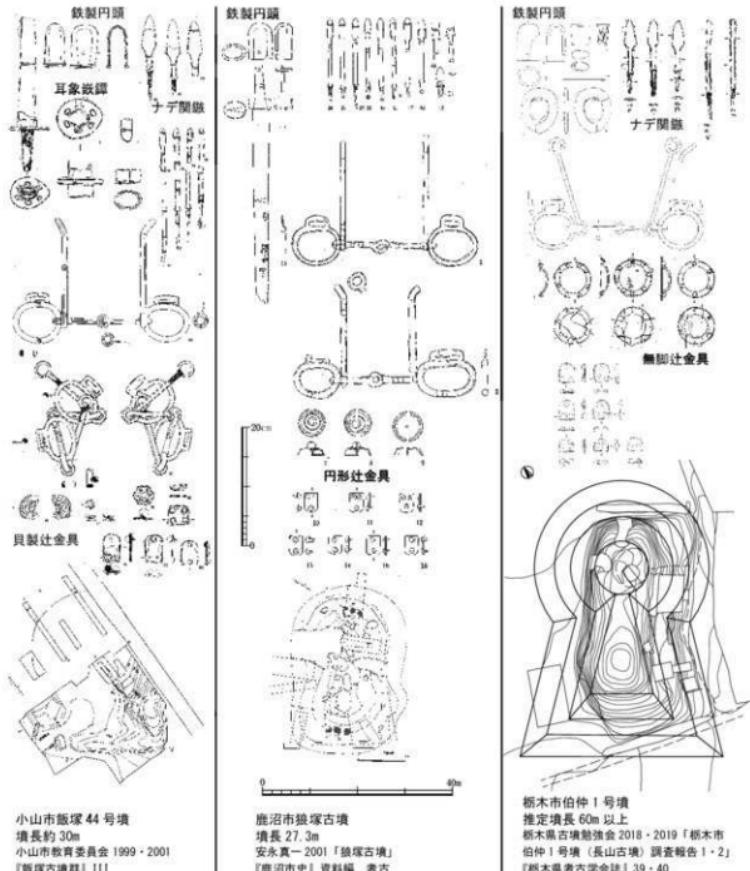
刀の種類をある程度推定できる倉木城の事例を集計

A) 最有力首長墳（長径60m以上）の装飾大刀						
	施主	陪葬馬具	馬 具	刀 銅装	唐頭大刀	袋頭大刀
丹生	船方後円27.0m 円28.4m(帆立)	△ (秀)	甲 金銅装	圓	銀製金具・切端当	後葉
六條塙塚	船方後円27.0m 円28.4m(帆立)	△ (秀)	甲 金銅装	圓	金銅円頭	後葉
伊勢1号(船山)	船方後円30.0m 円20.0m	△ (秀)	金銅装	馬頭 金頭	金銅円頭	後葉
(横線)江戸内、若狭・越後(郡)貢地						
最有力首長墳の跡大刀は長径（→ 墓頂江長径60m以下）。円頭は仲町だけ秋葉。						
B) 長径30~60mまたは金銅装馬具/銅鏡等を伴う有力墳の装飾大刀						
(施主)	施主	陪葬馬具	馬 具	刀 銅装	唐頭大刀	袋頭大刀
土師り塙塚	円28.4m(帆立)	△ (秀)	金銅装	鐵頭	金銅・輪止器	後葉
高田	不明	○	金銅装	鐵頭	金銅(反脛刀)	後-末葉 43-209
高島神社	不明(前方後円)	○		鐵頭	金銅頭椎	未葉
吉瀬1号	円20.0m	○	金銅装	鐵頭	金銅頭彎	後-末葉 43-209
吉瀬高校所蔵	6.明		金銅装	○	金銅主頭	未葉 209
(船原郡)						
須坂	船方後円27.3m	△ (秀)	鐵頭	圓	金銅円頭	後葉
西久山6号	船方後円33m	○	金銅装		金銅円頭	後葉
別の宮神社	円27.0m	○	金銅装	圓	金銅頭椎	後葉
須坂44号	船方後円30m	○	金銅装	鐵頭	金銅円頭+金銅頭椎	後葉
(安藤郡・足利郡・栗原郡)						
山崎15号	円31m	△ (秀)			金銅頭椎	後葉
山崎15号2-860	円31.8~38.8m	○			金銅主頭	後葉
山崎15号2-861	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-862	円31.8~38.8m	○			金銅円頭	未葉
山崎15号2-863	円31.8~38.8m	○			金銅円頭+頭椎	未葉
山崎15号2-864	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-865	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-866	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-867	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-868	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-869	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-870	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-871	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-872	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-873	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-874	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-875	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-876	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-877	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-878	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-879	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-880	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-881	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
山崎15号2-882	円31.8~38.8m	○			金銅頭椎	未葉
(河内内) 奈良野鹿(?)は(破)足利郡栗原郡の可作性						
船山塙塚	船方後円40m	△			半羅	後葉
大内斎賀塚	船方後円43m	△ (秀)	金銅装		半羅直軸	後-末葉
大内斎賀2号	船方後円43m	△ (秀)	金銅装		金銅円頭	後-末葉 43-209
大内斎賀3号	船方後円43m	△ (秀)	金銅装		金銅円頭	中葉 65
大内斎賀33号	円31m	○			金銅頭椎	未葉
(大内内) 奈良野鹿(?)は(破)足利郡栗原郡の可作性						
船山塙塚	船方後円40m	△			半羅	後葉
大内斎賀塚	船方後円43m	△ (秀)	金銅装		半羅直軸	後-末葉
大内斎賀2号	船方後円43m	△ (秀)	金銅装		金銅円頭	後-末葉 43-209
大内斎賀3号	船方後円43m	△ (秀)	金銅装		金銅円頭	中葉 65
大内斎賀33号	円31m	○			金銅頭椎	未葉
(大内内) 奈良野鹿(?)は(破)足利郡栗原郡の可作性						
西山	円30~36m	○			金銅双龍	未葉 209
竹下茂間山	船方後円32.5m	△	金銅装	鐵頭	金銅双龍	未葉 209
奈良大土塚	船方後円43m	△ (秀)	甲 金銅装	圓	金銅直軸	後葉
奈良大土塚12号	船方後円43m	△ (秀)	甲 金銅装	圓	金銅直軸	後葉
小野果根1号	円16~20m	○	圓	圓	唐頭上下方	中葉 65
4-7号	円規格不明	○			唐頭直軸	未葉
(船原郡)						
西山1号	円20~21m	○			如意寶 金頭?	未葉 209
浮舟塙塚2号	円25m	○			如意寶 金頭?	未葉 209
浮舟82号	円10m	○			如意頭	終末期 217
(安藤郡・足利郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円18.3m	○		鐵頭	御事寶 金製紐日	未葉 209
御神台31号	円18m				御方頭	終末期 217
伊勢山12号	円18m	○			御方頭	未葉 209
足利公綱(?)H2号	円22m	○		鐵頭	御物頭日(金頭?)	未葉 209
足利公綱(?)H2号南	円12×15m	○		鐵頭	八重頭牌(金頭?)	後-末葉 43-209
山崎山2号(長林寺)2番	円19m	○	圓	圓	金銅双龍	終末期 217
(河内内) 奈良野鹿(?)は(破)足利郡栗原郡の可作性						
御神台G2-29	円15m	○			御事寶直軸	未葉 209
御神台4号	円15m	○			御方頭	終末期 217
御神台6号	円20m	○			金銅直軸+制板	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			金銅直軸	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			金銅直軸	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円15m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円6.6m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台4号	円15m	○			如意頭	未葉 209
御神台6号	円20m	○			如意頭	未葉 209
大内大土塚	円10~12m	○			如意頭	未葉 209
近畿大日堂	円15m	○			如意頭	未葉 209
(船原郡・栗原郡)						
御神台G2-29	円21m	○			如意頭	未葉 209

飾大刀が副葬されるような共通の事情を推定できる。

〔古墳時代後期後葉〕 後期後葉は、釣手佩用（緑佩き）や金属線巻柄・糸巻柄の大刀を主に使う段階である。TK43型式期を中心として、TK209型式期まで若干副葬される。

地域最有力首長墳の装飾大刀が袋頭つまり頭椎・円頭・圭頭大刀であること（第2表A）は、関東と東海東部に共通する（内山2019）。東方の河内地域にある下野市石橋横塚古墳も銀装円頭大刀を持つ。東に隣接する都賀地域の壬生町・栃木市吾妻古墳の銀装貴金具も袋頭大刀を推定できる。吾妻古墳は、群馬県八幡宮親雲塚古墳や埼玉県小見真觀寺古墳のように銀装圭頭大刀を副葬していた可能性がある。銀装大刀には下



第7図 副葬品組成が類似する前方後圓墳

野市別処山古墳のような倭系・折衷系円頭大刀もあるが、吾妻古墳の貴金属はロウ付け接合と見られるため、倭系・折衷系装飾大刀ではないであろう。

伯仲1号墳の鉄製円頭大刀・鉄製素環軸は、この地域最大の後期前方後円墳の副葬品としては、階層が低く感じられる。鉄製円頭・素環軸・ナデ開柳葉鏡の組み合わせは、墳長約30mの小山市坂塚44号墳と近い。墳長27.3mの鹿沼市狼塚古墳にも似た組み合わせがある（第7図）。

現在所在不明の銀装大刀が伯仲古墳群で出土していることには、注意する必要がある（第1表15番、小森1986）。天井石部分が開口していた伯仲1号墳の石室から銀装大刀が持ち出された可能性もある。仮にそうであれば、鉄製円頭だけでなく倭系・折衷系銀装大刀、あるいは銀装主頭大刀を副葬していた可能性がある。

墳径20mの赤麻1号墳は象嵌装円頭大刀（第5図中上）と、所在不明の金銅装主頭大刀が出土している。型式差のある袋頭大刀を2振副葬する事例としては、足利市足利公園龍古墳が金銅装頭椎大刀を2振持つ（豊島2019, pp.91,93）。型式差のある頭椎大刀を2振も千葉県金鈴塚古墳の石棺被葬者は、装飾大刀が必要に応じてその都度製作される品であることから、入手する機会が人生で2度あったと解釈されている（大谷2022, pp.113,116）。

（古墳時代後期末葉～終末期初頭） 装飾大刀に二足佩用（横佩き）や板金柄が多く使われる時期を、後期末葉以降として扱う。TK209型式期から飛鳥I新相期を中心に副葬される。

富田古墳では2振分の金銅装および銀装刀装具と、鉄刀破片が採集されている（第5図右・写真1）。そのうち鉄地銀張製の刀装具は、「鍔・籠一体銀張り」の籠に付着する柄巻銀線が「2列刻み三角形銀線」なので（大谷2022, pp.94-95）、銀装主頭大刀と考える。富田古墳のもう1振は、金銅製の喰出鍔・籠（はばき）・單脚足金物・鞘筒金具破片から、金銅装双龍環頭大刀の可能性がある（竹澤2014, p.34）。二振の装飾大刀を持つ点に富田古墳の優位性が見られる。軍事的性格を持って袋頭大刀あるいは倭装大刀を副葬する地域の有力者が、“二本目”的として外来系技術や文化に関わる環頭大刀も副葬する類型であろう（内山2019, p.77）。上三川町大山瓢箪塚古墳でも、倭装大刀+金銅装円頭大刀+金銀装单龍鳳環頭大刀の組み合わせを副葬している（黒崎2019, pp.104, 120）。

鹿島神社古墳の金銅製頭椎柄頭は畔目（うなめ）が1本であることから豊島（2019）分類の畔目I式であることはやや古い要素である。鳩目金具がないので、長脚（古墳後期末葉）か短脚（終末期）なのかは判断



左側は一体銀張の籠（左）と鍔（中央）  
右端に2列刻み三角形銀線が付着  
(銀装主頭大刀)



金銅製喰出鍔  
(推定 双龍環頭大刀)



金銅製单脚佩用金具  
(推定 双龍環頭大刀)

写真1 栃木市大平町富田古墳出土刀装具（竹澤涉氏採集 栃木市教育委員会保管）

できない。6×4cm サイズの小型品で、頭椎柄頭としては最小の大きさである。

皆川村岩崎出土の双龍型頭柄頭（第5図右下）は所在不明で、後藤（1928）が並べて拓本を掲載した足利市長林寺裏古墳の柄頭と同じ縮尺とを考えると、「中型」サイズの柄頭（豊島2017）に相当する。拓本からは施文を検討できないが、豊島分類の内向V式に相当する可能性が高い。栃木市岩崎山古墳群または岩出古墳群出土と考えられる（栃木県古墳勉強会2012）。古墳後期末葉から終末期の装飾大刀は、群集墳内で他の古墳と大きな差がない小古墳でも多く出土するので（第2表C・第3表a）、丘陵上に群在するありふれた規模の一古墳から出土したのかもしれない。

### 3 装飾付武器・馬具出土古墳と古墳時代後期

**〔馬具と大刀〕** 栃木県域の古墳後期・終末期には、装飾大刀（54遺跡）が馬具（108遺跡）よりも少ない。この数字は象嵌刀装具を含まないが、鉄製柄頭は含めている。後期後葉には群集墳の頂点をなす階層以上が装飾大刀を副葬することが知られている（新納1983, pp.57-59; 本稿第2表B）。ただし、後で述べるように、後期末葉や終末期の装飾大刀は小規模古墳まで波及する。

装飾大刀と装飾馬具の上下は決めてくいが、装飾馬具のほうは上位層に目立つ。栃木県域全体の装飾大刀副葬古墳を3階層に分けると、装飾大刀副葬古墳のうち、最有力首長墳と準有力墳は金銅装馬具を副葬することが多い（第2表A・B）。装飾大刀副葬小型墳は金銅装馬具をもたず、鉄製馬具も少ない（第2表C）。

馬具は、馬を維持する財力、生得的な上位層を示す可能性がある。装飾のない轡・鉄刀を見た場合、鉄製轡が上位で、鉄刀は下層まで広く副葬される。馬具よりも鉄刀が小規模古墳まで副葬される理由を、軍事編成の下位層が歩兵だからと説明することが多い。

**〔中小規模墳と大刀〕** 装飾大刀副葬古墳のうち、中規模・準有力墳は古墳後期後葉に多く、小規模墳は古墳後期末葉から終末期に多い。第2表右端の「時期」欄に、それがよく現れている。装飾大刀が（1）群集墳被葬者層まで首及浸透してゆく側面と、（2）装飾大刀副葬古墳に限らず古墳全体の規模が後期後葉から終末期にかけて縮小してゆく側面（第3表d→e）との、二つを反映しているのだろう。（1）は、装飾大刀出土古墳が首長墓型から群集墳型へ移行するという指摘（新納1983, pp.60-61）と関連し、政治・軍事編成が下層へ進む状況を示している。

古墳後期末葉以後、7世紀の関東では、馬具を持たない一般的な群小墳でも装飾大刀が出土する（第2表C）。装飾大刀副葬の有／無が、7世紀の古墳被葬者層を上／下に二分する明確な指標になるのか、不明瞭な事例を含んでいる（第3表）。近畿中央政権や地方首長による下位層の軍事編成=徵兵は、地域社会から働き手を奪い、危険な業務に従わせる迷惑行為である。高い地位や家格とは別に、「弓の名手」「剣の達人」のような技術・能力・手柄を理由に装飾大刀を入手する場合が7世紀に増えたのであれば、下位層の軍事編成・勤員に魅力を惹う手段として有効だったかもしれない。軍事勤員と引き換えに古墳築造や大刀保有を下位層まで認めることで、群小墳や装飾大刀副葬が増えた。そして、本来は高い地位を表していた古墳や大刀の意味が変質した7世紀後半に、群集墳と金銀装大刀が衰退消滅するのだろう。

**〔平地の後期有力墳と中期古墳〕** この地域では、古墳後期後葉・末葉の有力墳の多くが平地にある。金銅装馬具を出土した第1図8・12・14・18、金銅装大刀では2・8・12・15・18が該当する。後期前葉・中葉の有力墳も、丘陵上ではなくて丘陵裾と平地の境にある（6・7）。これに対して、後期群小墳は丘陵上に多い（秋元2016, p.23）。永野川流域の古墳全体は、平地につくる中期から、丘陵に多い後期へ、立地の中心が移る。

丘陵上の装飾馬具・装飾大刀出土古墳は3と5だけで少ない。5の「皆川村岩崎」は岩崎山丘陵か岩出丘

第3表 古墳時代後期末葉・終末期の群集墳の古墳規模と装飾大刀

a) 桶木黒塚全体 新相装飾大刀出土古墳 (TK209-飛鳥II期)

凡例:番匠峰1号21→番匠峰1号墳/墳径21m

番匠峰1号21					
根本完塚20					
赤塚1号20					
長堤大日堂15	黒持台29号19	括延塚北1号25			
朝日觀音5号15	長林寺裏19	足利公園1号22			
足利公園西南15	伊勢山15号18	荒久台12号22			
藤井85号10	吉聖大澤遺北13	西方山3号21			
往6~10m	往11~15m	往16~20m	往21~25m	往26~30m	往31~35m
					往36~40m
					往41~45m

b) 小山市西高椅遺跡 後期末葉 (TK209)

凡例:111号(24.0)飾刀→111号墳/墳径24.0m/金銅装or鉄装大刀断面

111号(24.0)飾刀	飾刀-鉄装大刀の金銅製貴金属						
K18号(24.0)							
92号(23.8)							
113号(22.0)							
53号(15.3)	44号(21.5)馬具						
K15号(推15)	馬具-鐵製鉗具						
71号(19.2)							
106号(14.6)							
K22号(19.0)							
84号(13.6)	104号(21.5)						
K7号(推13.5)	K31号(推30)						
105号(15.5)	39号(21.0)						
	K13号(30.0)						
	66号(21.0)						
	K13号(30.0)						
	K6号(28.0)						
	35号(32.0)						
	109号(35.8)						
往6~10m	往11~15m	往16~20m	往21~25m	往26~30m	往31~35m	往36~40m	往41~45m

(小山市・とちぎ未来づくり財团2018-2020『西高椅遺跡』)・2・3)

c) 小山市西高椅遺跡 終末期 (飛鳥I新・II)

馬具-鐵製鉗具または鉗破片

112号(23.7)馬具

K12号(11)	K8号(20)	110号(21.0)	K5号(30)
往6~10m	往11~15m	往16~20m	往21~25m
			往26~30m
			往31~35m
			往36~40m
			往41~45m

(小山市・とちぎ未来づくり財团2018-2020『西高椅遺跡』)・2・3)

d) 佐野市黒持台遺跡 後期後葉-末葉 TK43-TK209(無袖・両袖長方形石室段階)

SZ1(25.7)			
SZ5(24.0)			
SZ019(23.0)			
SZ723(22.7)			
SZ8(11.2)漆器	SZ722(17.6)	SZ725(22.3)	SZ3(30.4)
SZ26(36.9)漆器			
往6~10m	往11~15m	往16~20m	往21~25m
			往26~30m
			往31~35m
			往36~40m
			往41~45m

(栃木県教委・とちぎ生涯学習文化財団2001『黒持台遺跡』・佐野市教委・とちぎ未来づくり財団2017『黒持台・黒持前遺跡』)

e) 佐野市黒持台遺跡 後期末葉-終末期 TK209-飛鳥II(胴張形石室段階)

SZ57(推15)			
SZ33(14.2)			
SZ38(13.1)			
SZ017(12.2)			
SZ30(11.0)			
SZ018(10.2)	SZ094(推11?)		
SZ526(推10)	SZ63(10.9)	SZ14(25.2)	
SZ82(推10)	SZ697(10.6)	SZ29(19)馬具・飾刀	SZ15(22.3)漆器
SZ086(9.2)	SZ41(推10?)	SZ50(16.2)飾刀	SZ22(20.6)
往6~10m	往11~15m	往16~20m	往21~25m
			往26~30m
			往31~35m
			往36~40m
			往41~45m

(栃木県教委・とちぎ生涯学習文化財団2001『黒持台遺跡』・佐野市教委・とちぎ未来づくり財団2017『黒持台・黒持前遺跡』)

陵の群集墳と推定できる。新式の双龍環頭大刀が群小墳で出土すること（松尾 2001, pp.88-89; 菊地 2010, pp.102-105; 穴沢他 1990, p.217）と関係するのだろう。足利市長林寺裏古墳（第5図右下）も、丘陵斜面の群集墳の一基である。

後期有力墳が平地にあることは、第1図に□○で示した中期古墳の大半が平地にある状況を継承している。馬具と銅留短甲を出土した中期後葉～末葉の小野東根所在中期古墳（11）と、後期前葉・中葉の小野東根4号墳・1号墳（10・9）の関係がわかりやすい。伯仲1号墳（14）は中期の蛭沼古墳群・赤麻1号墳（18）は中期後葉の赤麻愛宕塚・愛宕塚南古墳に接続した平地部に、一世紀ほど後で後期の有力墳を造る。

伯仲1号墳の場合、二世紀前の墳長96mの前方後方墳である山王寺大樹塚古墳も南東近くにある。複数世代もの年代差をあけて、伝説上の偉大な始祖の墓の近くに古墳群を築くことで、ある種の地位や社会的立場を明示する現象が各地でみられる（土生田 2010, pp.60,63-64,71-72）。前期の足利市小曾根浅間山古墳（墳長58m）と後期の永宝寺裏古墳（長66m）、前期の大田原市下侍塚古墳（長84m）と後期の侍塚1号墳（長40m前後）にも類似した関係が推定できる。永野川上流の丘陵から石室材を調達する社会的関係も持ちながら、下流の平野部に伯仲1号墳を築くことが、地域最大の後期前方後円墳被葬者にふさわしい選地だったのだろう。

#### 【謝辞】

栃木県古墳勉強会と横断研究会の皆様から多くの御意見・御教示をいただきました。また、大谷宏治・菊地芳朗・黒崎淳・小森哲也・瀧瀬芳之・趙辰元・島田直博・橋本道朗・橋本達也・藤村翔・宮代栄一の皆様から資料や情報を提供していただきました。お礼を申し上げます。

#### 【参考・引用文献】

- 秋元陽光 2016「栃木県赤津川・永野川流域の古墳群」『群集墳展開の共通性と地域性－王權・地域首長と群集墳被葬者－発表要旨資料』第21回東北・関東前方後円墳研究会大会, pp.21-35
- 秋元陽光・大橋泰夫 1988「栃木県烏島神社古墳について」『栃木県考古学会誌』第10集, pp.37-49
- 秋元陽光・斎藤弘 1982「栃木県立栃木高等学校所蔵の古墳出土遺物について」『栃木県考古学会誌』第7集, pp.75-83
- 穴沢暁光・馬目順一 1990「足利市西宮町長林寺裏古墳（機神山22号墳）出土の双龍環頭大刀」『古代』第89号, pp.208-226,
- 飯田光央・秋元陽光 2003「赤麻古墳出土埴輪の再検討」『峰考古』第14号 宇都宮大学考古学研究会, pp.19-34
- 岩舟町教育委員会（常川秀夫）1988「小野東根古墳群4号墳」岩舟町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 内山敏行 2011a「中期後半から後期前半の下毛野」『古墳時代毛野の実像』季刊考古学別冊 17 雄山閣, pp.57-66
- 内山敏行 2011b「毛野地域における六世紀の渡来系遺物」『古墳時代毛野の実像』季刊考古学別冊 17 雄山閣, pp.142-147
- 内山敏行 2017「栃木県域の馬具と鏡塚古墳」『馬具鏡塚古墳の諸問題』第22回 東北・関東前方後円墳研究会 大会 シンポジウム, pp.61-74
- 内山敏行 2019「大刀・甲冑・馬具からみた関東と東海東部の首長墓」『賤機山古墳と東国首長』季刊考古学別冊 30 雄山閣, pp.65-78
- えびの市教育委員会（橋本達也編）2021『えびの市 島内 139号地下式横穴墓』II
- 大谷晃二 2020「第4節 装飾付大刀 23まとめ」『千葉県木更津市 金鈴塚古墳出土品再整理報告書』木更津市教育委員会, 本文編 pp.254-267
- 大谷晃二 2022「金銀装大刀からみた金鈴塚古墳の被葬者像」上野祥史編『金鈴塚古墳と古墳時代社会の終焉』六一書房, pp.81-120
- 大平町教育委員会（大和久義平）1974「七廻り鏡塚古墳—栃木県下都賀郡大平町一」, pp.43,47,70
- 大谷宏治 2020「磐田市合代島古墳出土馬具の研究」『研究紀要』第7号 静岡県埋蔵文化財センター, pp.1-14
- 大谷宏治 2021「いわゆる「複環式鏡板付櫛」の研究」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集刊行会, pp.435-

452

- 大谷宏治 2022 「須津古墳群における馬具陪葬古墳被葬者の性格」『須津 千人塚古墳』富士市埋蔵文化財調査報告第74集 富士市教育委員会, pp.93-112
- 大和久麗平 1971 「柄木県における横穴式石室と馬具の変遷 (II)」『柄木県史研究』2, pp.37-50.
- 小山市教育委員会 (鈴木一男) 2001『飯塚古墳群』III-遺物編・ 小山市文化財調査報告書第44集 , pp.68-127 (44号墳)
- 小山市・とちぎ未来づくり財团 (内山敏行・森原忠志編) 2018・2019・2020『西高崎遺跡』1・2・3
- 折原寛 2020 「柄本市七ツ塚古墳群の再検討」『生産の考古学』III 六・書評 pp.175-188
- 菊地芳朗 2010 「第3章 装飾付大刀の系譜とその展開」『古墳時代史の展開と東北社会』大阪大学出版会, pp.69-110
- 金子大 2017 「第8章 日本列島出土初期装飾付環頭大刀の系譜」『金工品から読む古代朝鮮と倭』京都大学学術出版会, pp.257-288
- 倉田芳郎はか 1972 「七ツ塚 2号墳」『東北総貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』柄木県教育委員会, pp.55-76
- 黒崎淳 2000 「群集墳の時代」柄木県立しまつけ風土記の丘資料館 , pp.6, 9, 14, 19, 23, 32
- 黒崎淳・小森牧人 2014 「芳賀の歩けオジスト」佐藤行成の業績とその生涯 (1) - 行成資料と芳賀郡の市史・町史-『栃木県考古学会誌』第35集 , pp.87-109
- 黒崎淳 2019 「埋蔵物記」にみる柄木の古墳 (2)『栃木県考古学会誌』第40集 , pp.97-120
- 後藤守一 1928 「原史時代の武器と武装」『考古学講座』第6巻 雄山閣
- 小森哲也 1986 「真岡市根本兜塚古墳出土の頭椎大刀について」『真岡市史案内』第5号 真岡市史編さん委員会, pp.1-12
- 小森哲也 1991 「第4章 古墳文化の成立と展開 第四節 天王塚古墳の時代」『益子町史』第六巻 通史編, 益子町発行(栃木県芳賀郡) , pp.168-185
- 小森哲也・中村享史 1989 「柄木県における横穴式石室の受容」『東日本における横穴式石室の受容』第二分冊 , p.811
- 小森紀男・黒田理史 1989 「横穴式石室の世界」柄木県立しまつけ風土記の丘資料館第3回企画展 柄木県教育委員会, p.13 (小野果根1号墳)
- 埼玉県立さきたま資料館 (岡本健一) 編 1997『將軍山古墳 史跡埼玉古墳群整備事業報告書-史跡等活用特別事業-』確認調査編・付編 埼玉県教育委員会
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 (渡邊理伊知) 2022『行田市 北大竹遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第477集 佐野市教育委員会・公益財團法人とちぎ未来づくり財团 (太田嘉弘・中村享史) 2017『黒袴台・黒袴前遺跡』佐野市埋蔵文化財調査報告書第49集
- 山陽町教育委員会 (宇垣匡雅・高畠富子編) 2004『正崎2号墳』山陽町教育委員会 (岡山県赤磐郡)
- 高橋勇 1917 「柄木県赤沢村の古墳に就て」『考古学雑誌』第8巻2号 , pp.42-45
- 竹澤涉 2014 「柄本市大平町富田採集古墳遺物について」『栃木県考古学会誌』第35集 , pp.29-37
- 田代善吉 1939『柄木縣史』卷十二 考古編 下野史誌會
- 田中祐樹 2015 「古墳時代補修痕馬具分析の可能性-馬具実用品論試考-」『土曜考古』第37号 , pp.23-36
- 千賀久 1996 「日本出土の非新羅系馬具の系譜-大加耶圈の馬具との比較を中心に-」『国立歴史民俗博物館研究報告』第110集 , pp.283-307
- 趙晟元 2019 「金官加耶考古学の研究成果と流れ」『韓国古代史研究』94 (韓国語) , pp.49-85
- 東京国立博物館編 1980『東京国立博物館開館目録』古墳遺物篇 関東1
- 栃木県教育委員会 (海老原郁雄・鈴木勝・山井邦人) 1981『甲塚西遺跡』『県宮圓場地内遺跡発掘調査報告書』栃木県埋蔵文化財調査報告第41集 , pp.21-29, 37-49, 52
- 栃木県教育委員会・とちぎ生涯学習文化財団 (橋本澄朗・芹澤清八・仲山英樹・斎藤恒夫・竹前大輔) 2001『黒袴台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第261集
- 栃木県古墳勉強会 2004『中山 (符門靈神) 古墳調査報告』『栃木県考古学会誌』25, pp.97-115
- 栃木県古墳勉強会 2005『中山 (符門靈神) 古墳調査報告2』『栃木県考古学会誌』26, pp.71-91
- 栃木県古墳勉強会 2012『柄本市岩出古墳測量調査報告』『栃木県考古学会誌』第33集 , pp.43-72
- 栃木県古墳勉強会 2018『柄本市船舟1号墳 (長山古墳) 調査報告1』『栃木県考古学会誌』第39集 , pp.21-41
- 栃木県古墳勉強会 2019『柄本市船舟1号墳 (長山古墳) 調査報告2』『栃木県考古学会誌』第40集 , pp.25-57
- 栃木市教育委員会 1990『柄本市遺跡詳細分布調査報告』, p.105 (八幡社古墳)

- 豊島直博 2017「双龍環頭大刀の生産と国家形成」『考古学雑誌』第99卷第2号, pp.51-87
- 豊島直博 2019「頭椎大刀の生産と流通」『考古学雑誌』第102卷第1号, pp.77-121
- 奈良大学文学部文化財学科（豊島直博編）2020『坊主山古墳群出土品報告書』奈良大学考古学研究調査報告書第25冊
- 新納泉 1983「装飾付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』第30卷第3号, pp.50-70
- 土生田純之 2010「始祖墓としての古墳」『古文化談叢』第65集（1）九州古文化研究会, pp.59-73
- 濱田耕作・梅原未治 1923「日本発見刀劍環頭聚成」『近江國高島郡水尾村の古墳』京都帝國大學文學部考古學研究報告第八冊, p.108 と附録図版第三
- 肥田利子 2021「島内139号地下式横穴墓出土馬具のセット検討」『えびの市 島内139号地下式横穴墓』II えびの市教育委員会, pp.45-49
- 藤岡町教育委員会（尾島忠信）1985「藤岡町跡遺跡詳細分野別調査報告書」藤岡町文化財報告書第2集, 口絵およびpp.32-35（赤坂古墳）, p.52（伊勢山古墳）
- 藤岡町史編さん委員会編集（橋本澄朗・岩淵一夫・津野仁・尾島忠信・手塚達弥）2003『藤岡町史』資料編 考古 藤岡町発行（橋木県下都賀郡）
- 前澤輝政 1955b「地下式堅穴石室」調査報告-勝木県下都賀郡岩舟村中の島出土』『古代』28, pp.14-22
- 前澤輝政 1973「下毛野国曲ヶ島古墳群-勝木県下都賀郡岩舟町曲ヶ島所在」『古代』55, pp.1-17
- 前澤輝政 1973「足利公園古墳群中西南部円墳」『古代』45・46 合併号, pp.41-50
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団（戸所慎策・足立聰）1995「B区 内堀4号墳」『内堀遺跡群 X - 大室公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』- 前橋市教育委員会, pp.10-40
- 松尾充晶 2001「第6章 装飾付大刀の評価と諸問題」『かわらけ谷横穴墓群の研究』島根県古代文化センター調査研究報告書10 島根県教育委員会・島根県古代文化センター, pp.77-91
- 三木文雄 1974「王墓山古墳の遺物」『倉敷考古館研究集報』第10号, pp.190-198
- 宮代栄一 1997「古墳時代の面彫構造の復元-X字脚辻金具はどこにつけられたか-」『HOMINIDS』Vol.001 CRA, pp.49-70
- 宮代栄一 2015「長野県出土の馬具の研究-北信出土の環状鏡板付轡を中心に-」『信濃大室横石塚古墳群の研究』IV 考察篇 明治大学文学部考古学研究室・六一書房, pp.99-133
- 宮代栄一 2016「馬具でなくなった馬具-古墳時代後期における馬具の構造形態をめぐる一考察-」『駿台史学』第157号, pp.47-67
- 安永真一 2001「狼塚古墳」『鹿沼市史』資料編 考古 鹿沼市, pp.293-316



---

**研究紀要 第31号**

発行 公益財団法人 とちぎ未来づくり財団  
埋蔵文化財センター

〒329-0418  
栃木県下野市紫474番地  
TEL 0285(44)8441(代表)  
FAX 0285(43)1972  
HP : <http://www.mai bun.or.jp>

発行日 令和5(2023)年3月30日発行  
印 刷 株式会社 泰明グラフィクス

---